

令和2年度 新潟県立阿賀黎明高等学校 第3回 学校運営協議会 議事録

1 日時

令和3年1月26日(火) 13時30分～15時30分

2 会場

県立阿賀黎明高等学校 多目的ホール



3 参加者

委員7人(欠席者なし)

(オブザーバー参加)

- ・阿賀黎明高校魅力化プロジェクト関係者4人
- ・阿賀黎明探究パートナーズ関係者5人
- ・阿賀黎明高等学校教職員7人

計23人

(参加者氏名等一覧)

(1) 学校運営協議会委員

氏 名	所属・役職など	所属部会など
清 野 一 男	前阿賀町教育委員会教育長	会長、評価部会
遠 藤 佐	阿賀町教育委員会教育長	副会長、評価部会
稲 生 一 徳	阿賀町立阿賀津川中学校長	評価部会
齋藤 俊太郎	麒麟山酒造株式会社 代表取締役社長	地域協働部会
猪 俣 一 成	株式会社巴山組 専務取締役	地域協働部会
石川 英理香	県立阿賀黎明高等学校PTA会長	評価部会
平 山 剛	県立阿賀黎明高等学校長	地域協働部会

(2) 阿賀黎明高校魅力化プロジェクト

氏 名	所属・役職など
西 田 卓 司	阿賀町教育委員会 学校教育課 黎明学舎 塾長
丹 羽 貴 一	阿賀町教育委員会 学校教育課 黎明学舎 スタッフ
波多野 彩佳	阿賀町教育委員会 学校教育課 黎明学舎 スタッフ
及 川 真 央	阿賀町教育委員会 学校教育課 黎明学舎 スタッフ

(3) 阿賀黎明探究パートナーズ

役 職	氏 名	所属・役職など
副 会 長	清 田 周	阿賀町社会教育委員
理 事	宮 澤 直 子	阿賀町議会議員
監 事	清 野 義 昭	室谷区長
会 員	清 野 真 也	阿賀町議会議員
会 員	小見 まいこ	NPO法人みらいずworks代表

(4) 阿賀黎明高等学校教職員

職 名	氏 名	備 考
教 頭	尾 上 博 司	学校運営協議会事務局長
教 諭	大 滝 雅 代	コミュニティ・スクール推進委員長、国語科
教 諭	荒 井 一 樹	教務主任
教 諭	松 永 昌 範	2 学年主任、教務部、数学科
教 諭	吉 田 紀 夫	進路指導部、外国語(英語)科
教 諭	高 橋 裕	NEINシステム運用主任、数学科
講 師	大 橋 正	生徒指導部、外国語(英語)科

4 次第及び発言の概要

(1) 開会 (13:30～13:45)

ア 会長の挨拶

- 第2回では、保護者の皆さんや地域の皆さんの生の声を学校に伝えることができたと感じる。
- 以前の高校の魅力化の主な目的は阿賀黎明高校から大学進学者を増やすこと、学校の生徒数を増やすことの2点だった。
- 現在は、進学だけでなく就職にも焦点をあて、阿賀町の人材を育てる方向にも変わってきているのではないか。
- 先日、資料を頂いた国や県の制度を活用した新しい教育（「COREハイスクール・ネットワーク構想」）を始めるのは非常に喜ばしいことである。
- 今回は3回目なので次年度に向けてさらに有意義な会になることを期待する。

イ 阿賀黎明高等学校長の挨拶

- これから公立高等学校入学者選抜が始まる。2月8日には特色化選抜（本校はボート）、3月4日には一般選抜が行われる。
- オンラインで行われた「地域未来留学フェスタ」に参加した11名から入寮の申込があった。現在、県外からの出願申請期間であり、2月4日が締め切り日である。この11名の生徒が出願してくれることを期待している。
- 現在、新潟県が「COREハイスクール・ネットワーク構想」に申請中である。これは中山間地域や離島等に立地する小規模校への教育・支援を行うことを目的としている。
- 本校は同時双方向型の遠隔授業を実施する予定である。最終的には、この授業により単位認定も行われる。
- また、地元自治体との連携強化については、コミュニティースクールを強化する形で実施していく予定である。
- 採択結果が分かるのは3月下旬の予定。令和3年度は遠隔授業実施に係る機器の設置等を行う期間であり、実際の授業の実施は令和4年度からとなる見込み。なお事業の指定は3年間となる。

- 令和3年度から1学級募集となる。また町外・県外からの生徒の入学が本格的に始まる。学校の魅力化を進めて、地域からはもちろんのこと、県内外から選ばれる学校になるようご支援を賜りたい。

(2) 令和2年度 of 取組 (13:45～13:55)

ア 教育活動における連携 (主なもの)

① 総合的な探究の時間

ア 1年生

- ・ 地域の方々とのグループ協議及び対面式の対談
- ・ 福祉体験の一環として、地域のボランティアサロンを訪問

イ 2年生

- ・ テーマ別インタビュー (1組)
- ・ 職業人インタビュー、職場体験 (2組)

② 教科「地域学」

ア 2年生

- ・ 地域特有の自然及び防災に関する講演、実技及び被災地訪問
- ・ 地域の方々による地元産業の講演及び実演

イ 3年生

- ・ ホームページの作成方法
- ・ 阿賀町を宣伝する動画の作成 (新潟テレビ21 UXの「ふるさとCM大賞」に参加)
- ・ 「雪椿」の英訳パンフレットを外国の大使館に送付
- ・ 地域の方々による講演

③ その他

ア 「発酵キッチン」プロジェクト

イ 「全国高校生マイプロジェクトアワード関東summit」に出場 (オンライン)

イ 生徒募集における連携 (主なもの)

① 「地域みらい留学フェスタ」への参加及び学校見学会等の実施

「阿賀町教育留学制度」を利用した入寮希望者が11人 (男子8人、女子3人)

(内訳: 町外4人 (新潟市2人、妙高市1人、田上町1人)、

県外7人 (埼玉県2人、神奈川県2人、福島県1人、千葉県1人、東京都1人))

② 校長及び黎明学舎スタッフによる阿賀町、五泉市、阿賀野市及び旧新津市内の中学校訪問
(委員: 阿賀黎明高等学校長からの補足)

本校校長と黎明学者スタッフが中学校長にコミュニティースクールや阿賀町教育留学制度について直接説明した。阿賀町の取組が評価されているという、手応えを感じている。高校入試の出願生徒の増加に期待したい。

(3) 令和3年度 of 取組予定 (13:55～14:00)

ア 教育活動における連携

令和4年度入学生の教育課程、地域と連携した教育活動の年間計画

イ 「COREハイスクール・ネットワーク構想」(仮)

県教育委員会が文部科学省に申請中。採択されれば、令和3年度から実施。

(内容：遠隔授業の実施、地域連携・協働体制の構築)

(委員：阿賀黎明高等学校長からの補足)

「阿賀学」は「総合的な探究の時間」において、1・2年生の進学を希望する生徒が学ぶ授業であり、「地域学」は2・3年生の専門学校への進学や就職を希望する生徒が学ぶ授業であることを御理解いただきたい。資料2の☆の活動についてぜひ協力していただきたい。資料1の「地域学Ⅰ」・「地域学Ⅱ」について、現在のところ2年生から学び始める予定になっているが、それでは遅いのではないかという意見もある。この点においても何かご意見があればいただきたい。

(質疑応答)

(遠藤副会長)

- 入寮希望の生徒と面接をした中で、「阿賀町で何がしたいのか」と質問をした。回答の多くは地域の方々と一緒になって「地域興し」を体験しながら、進路活動を進めていきたいというものであった。そのため、大学進学においても一般ではなく、総合型選抜で大学進学を目指す人数が増えてくるのではないかと思う。それを踏まえた教育課程になっているのか。

(事務局)

- 総合型選抜についても重要視していく必要があると考えている。例えば、人文学類で「地域学Ⅰ」を履修させることも考えていく必要がある。校内で検討し、決定していきたいと思う。

(委員：阿賀黎明高等学校長)

- 現状の教育課程の案は、精選した内容で作っている。各教科については、最低限の基本的な学習が必要と考える。阿賀学や地域学はこれまでの実績をさらに進化させていくことが求められていくと考える。

(委員：石川 英理香 阿賀黎明高等学校PTA会長)

- 学校の教室を開放することで、地域の方々に気軽に学校に来ていただき、生徒と交流する場を設けることはできないだろうか。
- これにより、生徒に阿賀町の魅力を知ってもらい、阿賀町に帰ってきたいと思ってもらえるようになればと思う。
- 現在はコロナウイルス感染防止対策や、学校の安全管理上の問題などハードルがあると思う。今すぐにできることでないかと思うが、自分がPTA会長の役が終わるまえに骨組みだけでも作れればと思う。

(清野会長)

- 「COREハイスクール・ネットワーク構想」の佐渡と阿賀町との交流について興味がある。佐渡の金山・銀山、阿賀町の銅山をセットにすると盛り上がるのではないかと。

(委員：阿賀黎明高等学校長)

- 県教育委員会にも話をしていきたい。新潟県は「COREハイスクール・ネットワーク構想」の中でも、遠隔授業を充実させ、離島および中山間地の活性化を進めることを目的としている。

(委員：猪俣 一成 株式会社巴山組 専務取締役)

- 教育課程について、地域について1年生で「学び」、2年生で「展開」、3年生で「発展」していくのがいいのではないかな。
- また、「阿賀学」と「地域学」の区分けをしてやっていく必要があるのではないかな。5教科を学ぶこととのバランスをとらなければならないと思うが、1年生で地域のことを学ぶ時間の確保をお願いしたい。

(委員：稲荷 一徳 阿賀津川中学校長)

- 全国の市町村で、高校がない市町村と1校だけある市町村をあわせては全国の62.5%である。つまり、高等学校教育が都市部に集中している。だからこそ、地域と高等学校教育の結びつきは重要である。
- 阿賀町は「阿賀町の15年教育」を謳っているので、それを進めていく必要がある。
- また。現在、中高で英語の連携教育に取り組んでいる。今後も引き続き中高の連携を進めていく必要がある。

(遠藤副会長)

- 「阿賀町の15年教育」について、構想はあるが、具体的に何をするかが決まっていない。
- 今後は具体的に何をするかについて明確にしていく話し合いの場を設けたい。
- 中学校は小学校、高校の両方と連携をとることができる位置にある。三川については、小中の連携はできているが、中高の連携が進んでいないのが課題である。
- 先程の石川委員の意見にあったように、「核となる場所」は必要であると思う。高校は空き教室があると聞いているので、是非検討していただければと思う。

(委員：斎藤 俊太郎 麒麟山酒造株式会社 代表取締役社長)

- 資料2に関して、阿賀黎明探究パートナーズの皆さんの中に「自分が何をすればいいのか」について明確になっている方がどれくらいいるのか、私は気になっている。
- (令和3年度に向けて) 2、3月中に具体的に何をすればいいのか、明確にしていく必要がある。

(4) 熟議 (14:00～15:20)

オブザーバーを交えて、次の 1、2 について熟議した。

ア 地域で探究活動を行う理由

イ 自分自身が支援できること



(5) 閉会 (15:20～15:30)

遠藤副会長の挨拶

- 学校運営協議会での多くの意見を踏まえて、令和 3 年度につなげていってほしい。
- 熟議のように、人があつまって話をすることは非常に大切であると改めて感じた。
- 熟議の中での意見には、令和 3 年度の取組予定である「あがまちゼミ」で活かせるものが多くあると感じた。実現可能であるかどうかは検討が必要であるが、非常におもしろい意見が多かったと思う。
- 是非、令和 3 年度において、「阿賀黎明探究パートナーズ」や地域、学校が、より一層協力し、阿賀黎明高校のコミュニティースクールを進めて行ければと思う。

資料 1

新潟県立阿賀黎明高等学校 令和4年度入学生 教育課程表（普通科 地域探究コース）（案）

令和3年1月26日

教育課程委員会

教科	科目	標準	就職又は 専門学校進学				大学等進学											
			教養学類				人文学類				看護学類				理工学類			
			1	2	3	合計	1	2	3	合計	1	2	3	合計	1	2	3	合計
国語	現代の国語	2	2			2	2			2	2			2	2			2
	言語文化	2	2			2	2			2	2			2	2			2
	論理国語	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4
	文学国語	4		2	2	4			4	4				0				0
	古典探究	4				0		2	3	5		2	3	5		2	2	4
地理歴史	地理総合	2	2			2	2			2	2			2	2			2
	地理探究	3				0				0				0			3	3
	歴史総合	2	2			2	2			2	2			2	2			2
	日本史探究	3				0		2	2	4		2	2	4				0
公民	公共	2		2		2		2		2		2		2		2		2
	倫理	2				0			2	2				0				0
	政治・経済	2			2	2			2	2			2	2				0
数学	数学Ⅰ	3	3			3	3			3	3			3	3			3
	数学Ⅱ	4		2	2	4		2	3	5		2	3	5		4		4
	数学Ⅲ	3				0				0				0			3	3
	数学A	2	2			2	2			2	2			2	2			2
	数学B	2				0		2		2		2		2		2		2
	数学C	2				0				0				0			2	2
理科	科学と人間生活	2	2			2	2			2	2			2	2			2
	物理基礎	2				0				0				0		2		2
	物理	4				0				0				0			4	4
	化学基礎	2		2		2		2		2		2		2		2		2
	化学	4				0				0			4	4			4	4
	生物基礎	2			2	2		2		2		2		2				0
	生物	4				0				0			4	4				0
	理科総合（学校設定科目）	2				0			2	2				0				0
保健体育	体育	7～8	3	3	2	8	3	3	2	8	3	3	2	8	3	3	2	8
	保健	2	1	1		2	1	1		2	1	1		2	1	1		2
芸術	美術Ⅰ	2		2		2		2		2		2		2		2		2
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3			3	3			3	3			3	3			3
	英語コミュニケーションⅡ	4		2	2	4		4		4		4		4		4		4
	英語コミュニケーションⅢ	4				0			4	4			4	4			4	4
	論理・表現Ⅰ	2	2			2	2			2	2			2	2			2
	論理・表現Ⅱ	2			2	2		2		2		2		2		2		2
	論理・表現Ⅲ	2				0			2	2			2	2			2	2
家庭	家庭基礎	2	2			2	2			2	2			2	2			2
	家庭総合	4				0				0				0				0
情報	情報Ⅰ	2	2			2	2			2	2			2	2			2
商業	ビジネス基礎	2～4		3		3				0				0				0
	ビジネス・コミュニケーション	2～4			3	3				0				0				0
	観光ビジネス	2～4			3	3				0				0				0
	ソフトウェア活用	2～6		3		3				0				0				0
	ネットワーク活用	2～4			2	2				0				0				0
家庭	フードデザイン	2～6		2		2				0				0				0
	保育基礎	2～6			2	2				0				0				0
地域学	地域学Ⅰ（学校設定科目）	2		2		2				0				0				0
	地域学Ⅱ（学校設定科目）	2			2	2				0				0				0
総合的な探究の時間		3～6	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3
特別活動（ホームルーム）			1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3
合計			30	30	30	90	30	30	30	90	30	30	30	90	30	30	30	90

※ 斜体太字は必履修科目

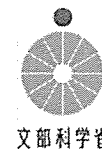
「阿賀学」及び「地域学」において地域の方々から御協力いただく活動（案）

☆：地域の方々から御協力いただく活動

	4～7月	8～11月	12～3月
1年	・ガイダンス ・ワークショップの基礎 ・「わたしの好きなもの」 ・トークフォークダンス① ・あがまちゼミ① ・夏休みプロジェクト設計 ・暮らしインタビュー事前指導	・夏休みプロジェクト ・暮らしインタビュー ・学校内プロジェクト設計 ・トークフォークダンス② ・あがまちゼミ②	・あがまちゼミ③ ・「私の学びたいこと」 ・2年次以降のプロジェクト設計
2年	・ガイダンス ・プロジェクト設計 ・プロジェクト実施 ・プロジェクトふりかえり ・あがまちゼミ④ ・しごとインタビュー事前指導	・しごとインタビュー ・プロジェクト実施 ・プロジェクトふりかえり ・プロジェクト再設計 ・あがまちゼミ⑤	・プロジェクト実施 ・プロジェクトふりかえり ・プロジェクト再設計 ・あがまちゼミ⑥
3年	・志望理由書作文作成 ・プロジェクト設計 ・プロジェクト実施	・大学受験、就職試験に向けた準備、面接・小論文練習	

COREハイスクール・ネットワーク構想

令和3年度予算額額（案） 2.1億円（新規）

地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワークの構築：**CO**llaborative **RE**gional High-school Network背景
・
課題

- **中山間地域や離島等に立地する小規模高等学校**においては、地域唯一の高等学校として、大学進学から就職までの**多様な進路希望に応じた教育・支援を行うことが必要**であるが、教職員数が限定的であり、生徒のニーズに応じた**多様な科目開設や習熟度別指導が困難**。
- **複数の高等学校の教育課程の共通化やICT機器の最大限の活用**により、中山間地域や離島等の高等学校においても**生徒の多様な進路実現に向けた教育・支援**を可能とする高等学校教育を実現し、**持続的な地方創生の核としての機能強化**を図る。

事業内容：中山間地域や離島等に立地する小規模高等学校の教育環境改善のためのネットワークの構築

①同時双方向型の遠隔授業などICTも活用した連携・協働

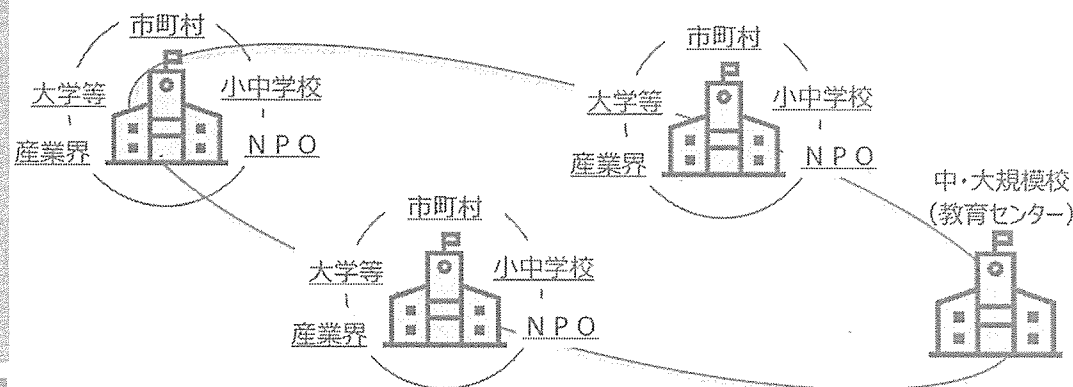
- ⇒自校では受けることのできない授業の受講を可能化
⇒免許外教科担任制度の利用解消
◆文部科学省が実施教科や形態に応じた複数の研究テーマを設定し実施

②地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築

- ⇒学校外の教育資源を活用した教育の高度化・多様化
⇒地域を深く理解しコミュニティを支える人材の育成

【事業の検証のための調査研究】

全国展開に向けて、各ネットワークにおける成果・課題を抽出・分析する実証研究を実施



※中・大規模校（教育センター）から複数の高等学校に対する「集中配信方式」の実施も推奨

生徒の多様なニーズに応じた質の高い教育実現する高等学校ネットワークのモデルを構築

対象校種	国公立の高等学校・中等教育学校	委託先	学校設置者
箇所数 単価（期間）	13箇所 1,400万円程度/箇所（原則3年）	委託対象経費	遠隔授業の開発・実施に必要な経費 （人件費、設備備品費、委員旅費、謝金等）

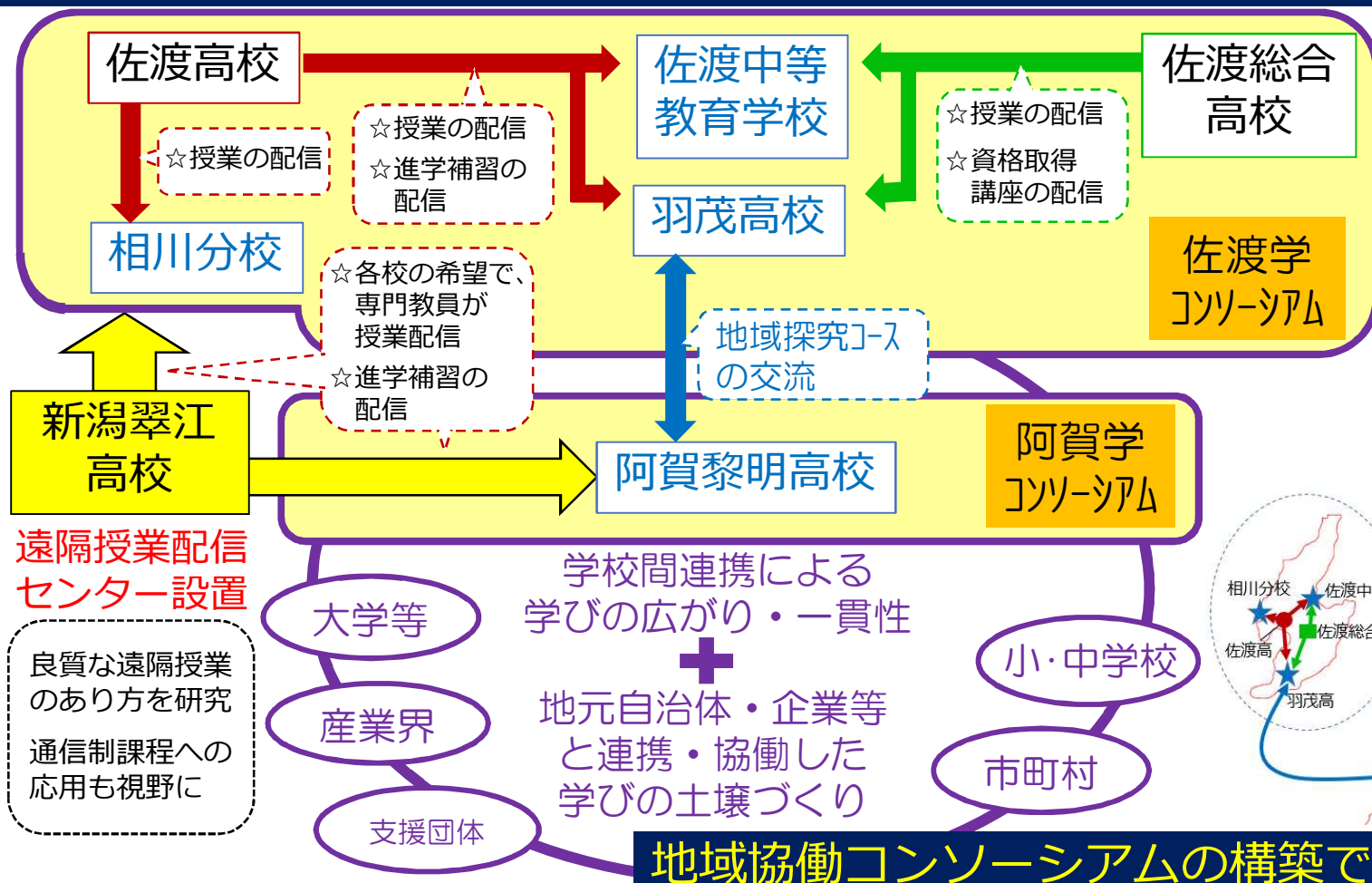
【新潟版】COREハイスクール・ネットワーク構想

地域社会に根ざした学校間連携・協働ネットワーク構築事業

背景
・
課題

- 本県で加速化する人口減少→離島・中山間地域中心に、学校小規模化が進行（切磋琢磨の機会や、多様な科目開設に課題）
- 地域人材の育成を主眼とした学校・自治体・産業界等の有機的構造を模索

遠隔授業で多様な進路希望に応じた教育・支援の充実



テレビ会議システムを各校に導入

遠隔授業で単位認定へ

